



うーみん

お騒がせヨット カーナビで日本一周の旅??

7月21日、午前10時45分、愛知県蒲郡所在のマリーナから蒲郡海上保安署に『日本一周のため7月11日に出港したヨットが19日、午前中、和歌山県田辺沖から「これから高知の室戸岬へ向かう。」との連絡を最後に連絡が取れない。』との通報があった。

乗組んでいたのは、**68歳の男性1名で、昨年4月に海技免状を取り、半年ほど練習した後、日本一周の旅へ出港**したもので、消息不明情報により、海上保安庁では無線機での呼出し、マリーナ・漁協等への情報提供依頼を行うとともに、21日から23日までの間に、延べ、**巡視船艇15隻、航空機10機(海上自衛隊機3機を含む。)**による大捜索を行った。

23日、午後4時9分頃、海上自衛隊P3C(航空機)が和歌山県潮岬南約98キロメートルでヨットを発見、その後、巡視船艇が会合、串本に向かったが、黒潮に流され、尾鷲沖合いに辿り着き、巡視艇ささゆり、伴走警戒のもと、25日、午前8時20分尾鷲港に無事入港した。

入港後の調査で、ヨットには**航海計器として無線機(5W)・携帯電話、カーナビ**しか装備しておらず、室戸岬沖で**沖合に流され、携帯電話もカーナビも受信できなくなり、**位置を把握しないまま勘を頼りに航行させ、技術未熟も相まって、発見されなければ、確実に遭難していたものと思料されたが、船長は「上空の航空機から無線で呼出しを受け、初めて自分が行方不明で捜索されていると知った。」とのこと。

灯台の生い立ち

人々が魚を取ったり、物を運ぶために丸木舟やいかだに乗って、海に出たのはずいぶん昔のことです。その頃は**目的地に行ったり、出発地へ戻るため、**山頂や特徴のある大きな木、岬の突端などの**自然にあるものを目印**にしていました。

しかし、船が大きくなり、航海術が発達して、だんだん**遠くへ出かけるようになると、**遠い所からも良く分かるように、**自然のもの以外の確実な目印が必要**になってきました。

そのため、**岬や島の上に石などで塔を建てて、焚き火をしたり、煙をあげたりして、舟の目標**とすることを考え出したのです。これが灯台のそもそもの始まりです。

しかし、その歴史については記録がないので詳しくは分かりませんが、**世界で一番古い灯台は紀元前279年にエジプトのアレキサンドリア港の入口ファロス島に建てられた灯台で、**完成までに20年かかり、高さが135メートルもあったと言われています。

日本では、今から約1,300年の昔、天皇の使者の舟が唐の国(現在の中国)に渡った帰りに行方不明になることがあったので、船の帰り道に当たる**九州地方の岬や島で、昼は煙を上げ、夜は火を燃やして舟の目印にしたのが灯台の始め**と言われています。

ちなみに、尾鷲海上保安部管内で古い灯台は、三木埼灯台(昭和3年)、尾鷲第一、第二防波堤灯台(昭和6年)となっています。

尾鷲海上保安部

TEL 0597-25-0118

FAX 0597-22-0639

メールアドレス owase-kq@kaiho.mlit.go.jp

住所 〒519-3612 三重県尾鷲市林町1-29

事件・事故 海の「もしも」は
『118番』

次回発行 8月20日